

## 目次

※ この目次のページは、ご覧の画面下に表示されるページを表しています。

(例) 

1	/	43
---	---	----

  
↑                      ↑  
掲載のページ      全ページ数

内 容	ペ ー ジ
1 会議録の様式	2
2 次第	3
3 小金井市男女平等推進審議会発言内容	4 ~ 43

# 会 議 録

会議名(審議会等名)	小金井市男女平等推進審議会(平成22年度第3回)
事務局	企画財政部企画政策課男女共同参画室
開催日時	平成22年12月15日(水) 午後6時30分～8時30分
開催場所	前原暫定集会施設A会議室
出席者	委員 伊藤智代子委員、宇都宮正騎委員、加藤りつ子委員、佐藤宮子委員 森田千恵委員、井上恵美子委員、加藤春恵子委員、関口修男委員 中澤智恵委員、吉田哲三委員
	事務局 阿部企画政策課男女共同参画担当課長補佐 古谷企画政策課男女共同参画室主任
欠席者	なし
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者	なし
会議次第	別紙のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	なし

第5回小金井市男女平等推進審議会(平成22年度第3回)

平成22年12月15日(水)

午後6時30分～8時30分

場所：前原暫定集会施設

1階A会議室

次 第

1 内 容

(1) 男女共同参画の推進について

(2) その他

第5回小金井市男女平等推進審議会（平成22年度第3回）

平成22年12月15日（水）

【佐藤会長】 暮れのお忙しいところ、本日はどうもありがとうございます。では、第5回男女平等推進審議会を始めたいと思います。

まず、事務局から何かありましたら、お願いいたします。

【阿部課長補佐】 はい。資料は特にはないんですが、次第と、成人式の日配る冊子があるんですけども、この中に男女平等関係のページがありまして、その写しをお配りしました。それと、「月刊こうみんかん」にこがねいパレットの事業が紹介されましたので、その写し、ワーク・ライフ・バランスのイベントのチラシをお配りしましたので、もしご都合がつけばご参加ください。

事務局からは以上です。その他、それぞれ委員さんから配られた資料がありますけれども、どうでしょうか。

【佐藤会長】 皆さんからも一応話していただいて、藤枝市のことはどなたでしょう。

【井上委員】 これが、全国女性史研究交流の集いのときに配られた最近の神奈川県と藤枝市の父子手帳についての資料です。ちょうど以前父子手帳の話をしていたので、最近の動向ということで、コピーしてきました。

【佐藤会長】 どこの分科会ですか。

【井上委員】 大阪が、母子手帳の歴史の報告をしていて、その関連でというので配られました。

【森田委員】 お聞きになった今のお話が、どちらの学会でしょうか。

【井上委員】 第11回全国女性史研究交流の集いが東京で9月4、5日にあり、女性史の歴史研究のいろいろな報告中の戦前からの母子手帳の報告があって、ちょうど藤枝市から来ていらしたという方が関係するのというので配布をしたというものです。

【森田委員】 佐藤さんたちがお出になった研究会……。

【加藤（り）委員】 そうです。全国女性史研究交流のつどいです。

【森田委員】 あのときの。9月4日でしたね。

【加藤（り）委員】 そうです。

【森田委員】 私、別の社会学の研究で、母子健康手帳に見る育児のやり方が変遷して

きて、現代の母親を苦しめているというのを文献で読んだものですから、その報告とまたちょっと違うとは思いますが、興味深いなと思って。母子手帳の記述において育児方法の変化があるようです。母子健康手帳は、海外にはあまりないと言われているんです。

【佐藤会長】　　じゃ、あとの報告のほうは。

【森田委員】　　私のほうから、紫色のパープルリボンの表紙の「ゆうREPORT」と、黄色いチラシで「さあ定年。地域でつくろう新しい仲間」のチラシを配っていただいたんですが、紫色のほうは勤務先で4カ月に一度つくっている情報誌なんですが、今回、女性への暴力防止が11月が強化月間なので、そのころに出すということで、皆さんご存じでしょうか、乳がん防止はピンクリボンなんですが、パープルリボンは女性への暴力防止で、キャンペーンを行っていきまして、それをどなたかにつくっていただいて、それを織り込んだキルトを協力団体につくっていただいたものを表紙にしております。中身は、暴力防止の特集記事と、その他いろいろ書かれておりますので、お読みください。

「さあ定年。」のほうは、区民の方が出してくださった企画で、もう第1回も終わっているんですけども、よく扱われるテーマでもありますし、講師の方の情報も参考になるかなと思って配らせていただきました。どうぞごらんください。

【佐藤会長】　　何か、事務局からあれば、お願いします。

【阿部課長補佐】　　配付資料の件で、前回、成人式にデートDVのカードを配布してはどうかというご提案があったんですけども、担当課に聞きましたら、配布物はごみになるので原則的に禁止ということで、もし配布するのだったら、事務局が当日行って配布して、ごみになったら終わった後全部回収して、拾ってお掃除してくださいということで、そこまでは対応できないかなということで、冊子は毎年配っていますので、この中にデートDVの情報を印刷することになりまして、デートDVの情報が左側の下のほうに載っています。

【森田委員】　　これは、今年度初めて入れたものですか。

【阿部課長補佐】　　はい、そうです。今までこのデートDVの情報がない形で、載せてあったんですけども、ちょっと詰めてこれを載せました。

それと、男女平等情報紙「かたらい」とかその他の配布物が色弱者の方にとって見にくいというご指摘がありまして、今月発行予定の「かたらい」を4色刷りにしたいと思って入札をかけたんですけども、予算上折り合いがつかなくて、結局2色で、同系色の濃淡を濃くすれば見やすいということらしいので、そういう形で対応したいと思います。

今後、予算が許せば4色刷りにしたいんですけども、予算の関係で難しい場合は、同系色で濃淡をつけたものが見やすいということなので、そういう対応をしたいと思っております。

【加藤（春）委員】 薄い文字はなくなりますか。おしゃれなつもりで薄い文字という流行があつて、それをある程度の人から見ると非常に見にくいと。

【阿部課長補佐】 わかりました。文字は濃くという形になりますね。

【加藤（春）委員】 だささとの兼ね合いはあると思いますが、読んでもらいたかったら文字は濃くしたほうが。私もレジメなんかをつくる時に、明朝体が好きなんですけど、明朝ではなくて丸字っぽいほうが見やすいなんてこともあるみたいです。

【阿部課長補佐】 今後、そのような対応にしていきたいということで、よろしく願いいたします。

あと、地域包括センターのことについて介護福祉課に聞いたんですけども、介護保険法に基づくものということで、介護保険法は65歳以上が対象ですので、その対象者に対しては対応するけれども、それ以外は難しいということのようです。

【伊藤委員】 地域自立支援センター的なものは、小金井市にはありますか。

【阿部課長補佐】 自立支援センターというのはあると思います。

その他、前回の審議会の後に幾つか事業を行いましたので、その報告をさせていただきたいと思っております。

【古谷主任】 まず、平成22年9月18日に、小金井市男女共同参画シンポジウムを行いました。場所はもえぎホール、市民会館のホールです。内容としましては、講演でして、テーマは「身近な人が暴力被害に悩んでいたら」、サブタイトルで「DV被害者を救うために」としまして、DVについての講演をしていただきました。講師はカウンセラーの野本律子さんという方です。当日の参加状況ですけども、23人でした。保育は専門職員が1人、結果として当日1人という形で終わりました。

シンポジウムに関しては以上です。

あと、先日12月5日に「第24回こがねいパレット」を行いました。場所は小金井市福祉会館です。公民館本館と同じ建物です。パレット自体のテーマとしては、「パパの子育て よーいドン！ 家族もパパもハッピーに」と題して開催しました。

内容としまして、1つ目が講演を行いました、タイトルが「みんなで子育てを楽しめる社会をめざして」、講師が小崎恭弘さんという方です。元保育士でいらっちゃって、NP

○法人ファザリング・ジャパンの理事をされている方です。

もう一つは、「しゃべり場」と題して、アドバイザーとして小崎恭弘さんに引き続き出演していただきまして、事前に選出していたパネリスト4名の方、あと会場で参加していただく方たちの参加型という形で、子育てに関する話を行いました。

展示としまして、こがねいパレットに賛同する団体に自己PRの場を設けるという趣旨でパネルで展示をしていただきました。

結果ですけれども、参加者は58名ということです。細かい内訳等は特にないんですけれども、全体として58名の参加があったということです。

【阿部課長補佐】 あと、昨日ですけれども、この会場で女性のための再就職支援セミナーというのを行いました。今まで21世紀職業財団と共催で行っていたんですが、こういう事業を行わないということになりまして、国分寺にある東京しごと財団、東京しごとセンター多摩と共催で行いました。

センターが近くだったものですから参加者も多くて、39名の参加がありました。保育実施が5名でした。寒い時期ですから、お子さんの体調が悪いということで2名欠席されましたが、まずまずの参加数で、皆さん満足そうに帰られていきました。

以上です。

【森田委員】 何点か質問したいんですけれども、この後、せっかくパレットに何人もかかわっているのに、一言ずつパネラーの方と企画にかかわった者と見に来られた方にも感想を伺いたいんですけれども、お時間とっていただいてよろしいですか。

私のほうから質問で、9月のDV被害者の支援者のセミナーは、内容的には、被害者と支援者とどちらなのか。両方含んでいらっしゃるのか。来られた方の内訳は、民生委員の方がいらっしゃるのか、ほかの方が多かったとか、どんな感じでしょうか。

【古谷主任】 そこまでは実際……。フリーで入っていただいて。

【森田委員】 わかりました。年齢的にはどのぐらいの年齢の方が。

【古谷主任】 年代はわからないですね。

【阿部課長補佐】 お若い方も結構いらっしゃっていました。

【森田委員】 アンケートでそのあたりもとって、DVセミナーって一番難しいので、例えば支援者向けに仕立てて被害者が来るといふふうにしたほうがその方も来やすいと思うので、あとは民生委員の方とか関連機関の方にも知らせて、できるだけこういう機会が開かれるようにしていただけたらと思います。

【阿部課長補佐】 被害者を救うためにはどうしたらよいかというような形で行ったので、支援者だけでなく被害者も参加しやすいということで、多分被害者だろうなと思われる方も何名か参加していらっしやったと思います。

【加藤（春）委員】 野本さんご自身が支援者であり、かつ被害経験者であるという方でいらっしやいましたので、両方行き来するいいお話だったと思います。ただ、聞いている人はそんなに多いということではなくて、いつもああいう……。

【阿部課長補佐】 そうですね。題材がDVですので、なかなか参加しにくいということがあると思います。

【加藤（春）委員】 でも、非常に適切な講師で、よかったと思います。

【森田委員】 きのうの再就職セミナーは、たくさん来られたのでよかったです、チラシを見たときに、1時から4時ぐらいは主婦が出にくい時間だなと思ひまして、お子さんの出産で退職した方が多いので、子育てとセミナーの両立というか、午前中のほうが出やすいので、そのときによって時間帯も変えてみていただくと、子供が学校から帰ってくる、幼稚園から帰ってくるで、午後はすごく出かけにくいと思うので。

【阿部課長補佐】 共催なので、なかなかその辺が難しいんですけども共催先はほとんど事業が午後なんですね。

【森田委員】 あくまでも主催は小金井市だと思うので、次回は違う時間帯でやってもらうようお願いしたいと思います。

こがねいパレットですけれども、企画側で、皆さんご参加いただいた上に、パネラーとして協力いただきましてありがとうございます。ほんとうにいい会になって、ありがとうございます。

5月ごろから集まりまして、私と加藤りつ子委員で今回委員を務めて、私は初めてだったんですけども、月に2回ぐらいのペースで、半年間で計14回委員会を行ひまして進めてきたんですが、テーマも毎年違っているんです。

テーマの提案の段階で、そんなに多くのテーマが出たわけではないのですが、結果的にパパの子育てに的を絞ろうということでご同意いただいたんですけども、ここで難しかったのが、委員の年代とか属性が特定のところに偏っていたので、50代以下が2人、つまりこの2人で、残り5人が60代以上の方だったんです。

子育てといっても時代によって違うので、現代の子育ての問題点を伝えるのに労力というか理解がなかなか進まなくて、なおかつ、今お母さんだけで子育てしているのがまだ続

いているというのを理解してもらったりとか、子育てがづらいのはなぜかという話をしても、それがパパの子育てへの参加が必要とか、女性だけが子育てにかかわるべきでないと話すんですけども、なかなか理解してもらいにくい環境にありました。

私は仕事と委員会の両立がすごく大変で、出かける時間帯と皆さんの時間帯がうまく合わなかったように感じています。

あとは、タイトルが、私はパパの子育てをもうちょっと強く出したかったんですけども、結果的にやわらかい感じではあるので。男の人にとっては怒られるんじゃないかと思うと来てくれないので、よかったかなと思うんですけども、もちろん地域の方、ほかの年代の方の子育てへの協力も呼びかけたかったんですが、もう少しパパの子育てを強調したかったなと自分自身の感想では思いました。

広報の問題点があって、先ほど五十何人とかおっしゃったんですが、展示だけを見た方や委員とかパネラーも含めた人数なので、実質10人ぐらい減ると思うんです。子育てに忙しい、それでなくても毎日ばたばたしている人たちをどうやって集客するかというのがすごく難しいと思っていたのですが、チラシを手配りに行ったりというのも効果があるので、1カ所だけ児童館に配りに行ったんですけども、あとは私が近所で配ったりとかしたのですが、なかなか足を運ぶことが大変な年代向けの企画は、集客が大変だなと。そこまでもうちょっと時間をとってもらいたかったなというのが反省点でした。

さっき「かたらい」のことも話していたら、引き受け手が少ないとか、専門性が低いという話を聞いてしまいまして、パレットもそうだったなと。話してもなかなか理解が進まない。もうちょっと、例えば、だれでもなれるんですけども、実行委員になった後に、パレットなりほかの参画センターでいろいろな講座を見てもらって、男女共同参画の理解を深めてもらうとか必要だったのではと。現代の子育ての問題点、もしテーマが子育てになったら少し勉強するとかというのをやるべきだった。何となくだれかが決めたテーマでどどどどと、形は整えたんだけども、行ってしまったんだけども、最後、当日の打ち合わせをしたときにも、まだ現代の子育ての問題点をわかってもらっていないんじゃないかなという感が強かったので……。

**【加藤（春）委員】** すみません、それは委員間でということですか。

**【森田委員】** そうです。委員同士でもなかなかコミュニケーションをとるのが難しいので、職員の方からもアプローチしていただいているんじゃないかという感想があります。

**【阿部課長補佐】** 公募市民なのでなかなか難しいんですね。男女共同参画という視点

で皆さんに応募していただいているので、それなりにそういう思いを持って参加して下さっていると思うんです。広く市民の皆さんに知っていただくということも大事なので、専門性もある程度大事ですけれども、その辺は調整がちょっと難しいかなと事務局でも感じているんです。

【森田委員】 若い方が入って来にくい何らかの要因があると思うので、「かたらい」もそうだと伺ったので、もう少し入りやすい工夫を、結果的にはだめであっても、結果的には時間のある方が多くなると思うので、もうちょっと来年に向けて何かあったらやっていただく、テーマの展示を出した団体さんにも、パレット委員募集のお手紙を送るとか。今回、子育て関係の団体が多かったので、どこまでもつながりをつくって工夫していかないと、同じような属性の方が集まって、毎年そういうイベントをやるとなると、もっと広くいろいろな方に来ていただいたほうがいいという気がしたんです。

うまく言えないんですけれども、以上です。

【加藤（り）委員】 パレットは今年24回になりますし、その前身の福祉を語る婦人のつどいもありますから、歴史は非常に長いわけですけれども、基本的に市民が主体となって、市民が実行委員となってつくっていくという流れでずっとやってきています。そこが、小金井の男女共同参画推進事業としての特徴ですけれども、今おっしゃったように、それでいい面と難しい面、どうしても両面出てきてしまいます。そのときの委員のレベルと言ってはほんとうに失礼な言い方で、私もそうですけれども、高い方ばかりではないので、その考え方ですとか、いろいろな部分に多少左右されてしまうところは出てきますけれども、それでも市民が参加して、実行委員会自体で学んでいくことが、パレットとしてすごく意義のあることだと私は思っています。

委員もそれなりに勉強はしているんです。専門的にやっている方から見れば物足りないとは思いますが、今回ももうすっかり子育て世代ではないんですけれども、小崎先生と決まったら一生懸命、先生の本を買って読んでくださったり、いろいろな新聞の切り抜きを持ってきたり、それなりに一生懸命勉強はしていただいています。ですから、いろいろギャップは感じてしまうだろうけれども、そこも上手に説明しながら、その方たちも学んで、さらにそれを広げていくという形を今までもとってきたと思いますし、続けていくのがいいのか。

あるいは、この実行委員会形式ではなくて、専門の方がつくるという形ももしかしたらあるかもしれないんですけれども、そういう方法をとったほうがいいと思うのであるなら

ば、それは考える必要があるのではないかと思います。

それから、今回のパレットに関して私が1つ……実は反省会が明日なんです。まだ、パレットの実行委員で反省会をしていないので、ほんとうに個人的な意見としてだけ聞いていただければいいと思うんですけども、全体の反省ではないのですが、子育てについて取り組むときって、いろいろ留意が必要だなと私は考えたんです。

パレットはいろいろな方が来てくださるんです。年代も、今回はパパの子育てですけども、子育ての終わった世代の方ですとか、私のようにそろそろ、子育ては30歳までぐらいと言われたからまだなんですけれども、もうちょっと子育てが終わる世代、それから、ほんとうに今小さなお子さんを育てている方、いろいろな世代の男性も女性も来てくださるんですけども、子育てを語るときに、子育てをして頑張っていて、それがお母さんたちの勉強になるよねとか、そこで成長していくんだよねというようなメッセージが、偏って伝わってしまう危険はあるなと思いました。

そこはもっと気をつけて伝えなくてはいけないところで、お子さんが欲しくてもできなかった方や、そういう状況にない方もたくさんいて、そういう方も来られるというのがパレットの前提なので、その表現とかメッセージはもう少し気をつけなくてはいけないというのが今回、私は一番大きな反省点でした。

あとは、先生のお話とかしゃべり場は良かったですね。

**【森田委員】** 講師の方はほんとうに適役でしたね。

**【加藤(り)委員】** パネリストも大変元気にお話ししてくださって、よかったのではないかと、それは自画自賛です。

**【森田委員】** 茶々を入れるわけではないですけども、専門的かそうでないかではなくて、私がかかりしたのは、直前にアンケートをつくっていて、「子育てが辛いときはどんなときですか」という設問を私が提案したら、「子育てはみんなつらいんだから」と言われて、それをどうにかしようというイベントなのに、まだわかっていただけていないかなというのと、司会の方が原稿をつくっていて、男女で参画すれば男女共同参画みたいなことを言われたので、そうではないんです。男女平等が男女共同参画という言葉にすりかえられて法律になったときから、そういう解釈をされる方も多くて、もちろんそれも1つですけども、いろいろな場に男女が共に参画するということも。でも、もっと根っここのところで役割分業が偏っているから男も女も息苦しいというのをもう少し伝えたかったなど。

【加藤（春）委員】 その文脈が全然なかったので、予めその文脈でお願いしたいとお願いしておいていただき良かったと思います。

【森田委員】 そうですね。その辺が、楽しいだけの雰囲気になってしまったかなというところがありますね。もう少しインパクトが……。

【加藤（り）委員】 アンケートとかのくだりに関しては、いろいろ実行委員会でのやりとりもあるので、またそれは実行委員会で反省できればいい。

【加藤（春）委員】 男女共同参画室が市民に直接男女平等に関するメッセージを送る貴重なチャンスなんです。公民館みたいに、何でここがもっと講座を打たないのかという声があります。それぞれみんな実行委員会形式ですから、男女平等に関する知識や意識を持っているとは必ずしもいえない人も集まってきてやるわけですね。あまりすばんと合わせようと思うとまた失敗しちゃうというようなことを公民館がやっている中で、ここが直接手を出してやるのは、あの機会が一番大きな機会であるのに、また同じことを同じような、大状況大文脈はどこかに書いてあるけれども、それがどうつながるのかを実行委員にさえ伝えきれない中で企画を出さなきゃならないということは、とても大きな問題だと私は思うんです。小金井の市民参加方式というのは、大変宝であるけれども、宝であるということで目的が阻害されることは、根本的に考えなければいけないと思います。

【森田委員】 直接企画する一番大きな規模のイベントだと思うんです。であるだけに、私ももうちょっと男性の参画というのを強く出したかったなと思います。

【加藤（春）委員】 ここの方々が多く参加されたという意味で非常に画期的だったと私は思う。特に宇都宮さんがいなかったら、何だか全然ピンぼけになったんじゃないかと。共働きのご苦労を話していただいたので。それから、おじいちゃんもとってもよかったと思っていますが、この催しの背景・目的を共有しにくい部分を抱えながらやるのが市民参加なんだろうかということは、ほんとうに考えないと、公民館のことをがちゃがちゃ言えないと私は思うんですけれども。

かといって、正しいことを上から教えましょうということではいけないので、そういうのはどうするかというのは非常に大きな問題ですけれども、今年は審議会委員たちの参画があって、ご苦心のあとが感じられるのですが、実は最初のアンケートを見た途端に私は問題を感じたんです。だって、社会全体でこのテーマ、パパの子育てを推進しましょうと。それは男女平等のために、性別役割分業、偏り過ぎはいけないからという、そこの大文脈が全然見えない形でやっていくから、会場にいる人はみんな子育てをしているような感じ

になっていきます。直接子育てをしていない人も視野に入れながら子育て中の人たちとその周囲に働きかけるということを、もっと具体的に、一つ一つのいろいろなケース、想像力を働かせて考えていただきたいなということを考えました。自分が準備段階に参加しないでいて、そういうことを言うと大変申しわけないんですけども。

講師はほんとうに子育てのことを知っていらっしゃるんだけど、男女共同参画、その前の男女平等という文脈から出発して、わかって話していただくかどうかは疑問だなと私は思いました。でも、あの方に頼らなければならない日本の現実があるから、あちこちの自治体があの方をお願いするわけですね。

そういうことを考えたときに、とてもいいテーマだし、宇都宮さんのご健闘はすばらしかったとは思いますが委員として参加された方々はとてもご苦労だったろうなと思います。

【森田委員】 実行委員会形式はなかなか難しい問題がありましたね。

【加藤（春）委員】 そうです。それと、皆さんがおっしゃっていた、情宣の問題って根本的に問題だと思います。子育ての話だけ聞くという方にとっては、講師の話はとてもいい、ご夫婦でいらしたらとてもいい話だけれども、どれだけそういう層にこういうものがあるということが伝わったかということは、公民館の情宣もいつもいつももどかしいと思っていますけれども、例えばJRの駅とかとの連携がとれないんです。だから、いつも市の催しに参加したり目を皿のようにして市報を見たりして情報源を持っている人しか来られないということがね。駅にばあんとイラスト入りの大きなポスターを出してもらったりしたらすごくいいかなと思うけれども、JRがそんなことを許すわけがないというのはいつもいつも伺っていることですね。小金井はいっぱいいいミーティングがあるけれども、その情報が一見さんに伝わらない。

【森田委員】 ほかの課のイベントで配っていただくようにいろいろ働きかけてやっていただいたものもあり、だめだったものもありなんですけれども、チラシができた時点からかなり10、11月は配っていただくようお願いして、私自身も1カ所、手配りという形だったんですが、なかなか情報が届かないなというのは思いました。

【加藤（春）委員】 ほんとうにいいことがいっぱいあるんですけども、大きなポスター一つ、どこにあるかというのと、あまり見えない。

【森田委員】 そうですね。難しかったですね。

【阿部課長補佐】 この件に関しては、かなりあちこちにチラシとポスターをお配りし

ていたんですけども、なかなか子育て中というところで、せつかくの休日をというのがあるのかなど。

【加藤（春）委員】 知っていて来ないというよりは、知る機会が……、普通の人を知るといふ情報源のところにはないわけですね。掲示板はどうでしたかしら。

【阿部課長補佐】 広報掲示板や市民掲示板にもポスターを貼りましたし、駅やイトーヨーカドー、床屋や郵便局・銀行にもチラシを配付しました。

【宇都宮委員】 僕の番が来たら言おうとは思っていたんですけども、先にそこだけ触れちゃうと、今回のテーマに関しては、僕、ド直球なターゲットなんです。はっきり言いますと、このテーマに合うド直球の年代層は、ポスターじゃなくてインターネットです。これはもう間違いないです。

私、ちょっと画策して、今年オープンして結構会員もいるパパナビというお父さんのためのポータルサイトというものがあるんです。そこのサイトにこの情報を載せてもらって、ファザリング・ジャパンの方が出られるという情報がありましたので載せられるかと思っていたんです。

そこはエリア別にメールを届ける、小金井市なら小金井市の近隣に在住しているパパにだけその情報を送ることができるんです。そういう伝え方ができる絶好のチャンスだったんですけども、今回のこがねいパレット専用のホームページがなかったの、そういったサイトのリンクとして掲載するのは難しいということになったんです。

【加藤（春）委員】 さっきも議事録を探していたんですけども、市役所のホームページから何かを探そうと思うと大変ですね。

【宇都宮委員】 市役所のページの中にはあったんですけども、こがねいパレットのページがないと掲載が難しかったんです。ご覧になればわかると思うんですけども、ショー的なイベントが多いですけども、いろいろなイベントが載っていて、正直、この講師の方がやれば載せられるぐらいの。東京都でもしゃべれるぐらいの人ですから、交渉の余地はあると思ったんですけども、ホームページがなかったの、進めるのが難しいと判断しました。

僕がここの委員になったきっかけの一つでもあるんですが、インターネットをもっと活用して広報していかないと。大してお金もかからない、ホームページがあれば、その情報はただで載せられたと思うんです。しかも小金井市で登録しているお父さんにだけ情報を提供するということができますし、もちろん近隣の都市も含むということであれば、隣接

している市なりにだけ限定して送ることもできたんです。実際、僕にも小金井近辺のイベント情報が届くんです。

【加藤（春）委員】 そのお父さんというのはどのぐらいの数？

【宇都宮委員】 今年オープンですから、そこまで多くはないと思います。会員の数なので、全国合わせての数になっちゃうので、東京とかこれ以外になっちゃうとどのぐらいいるのかはわかりませんが。

【加藤（春）委員】 私なんか考えるには、そこまで子育てネットワークに接近している人ではない人をどうつかまえるかというので、駅のポスターなんて考えちゃうんですけれども。

【宇都宮委員】 逆に、このイベントに来る人は、そういう駅のポスターのような地域に根づいたところで情報を得ると思うんですけれども、全くこういうものに興味のない人ってインターネットに行っちゃっていると思うんです。

【加藤（春）委員】 インターネットでキーワードを入れます？

【宇都宮委員】 キーワードを入れずに、多分そのサイトは、私はお父さんです、ここに住んでいますという情報をやると、向こうからメールを送ってくれるんです。今週こういうイベントがありますとか、来週こういうイベントがありますとか。そのイベントを送る中にこのイベントを入れるという仕掛けをしたかったんです。

そのときに、当然そのイベント詳細みたいなリンクをホームページにつけなければいけないんです。

【佐藤会長】 こがねいパレットを開催しますという公式ホームページにあるリンクをつなげることはできないんですか。

【宇都宮委員】 あれは市役所側がお持ちになっているページですね。なので、たてつけとして微妙になっちゃうんです。載っているのはみんな専用のページを持っているレベルで、そのレベルのページを持っていないと大きなサイトへリンクを掲載するのは難しいというのが現状だと思います。

【加藤（春）委員】 パレットの委員会を立ち上げるたびにそういうのをつくれば、すごく生き生きしたページができる……。

【宇都宮委員】 ですね。僕自身は、ツイッターでまこうと思ったんですけれども、市役所のページのリンクは携帯から見るのが結構難しかったりするので携帯で見られるサイトがもっとあればツイッターを有効活用できたと思います。ただ、チラシの文面を書いて

つぶやいただけでもフォローしてくれたお父さんや小金井市の方がいたことがわかった。しかもそれは書いてから30分ぐらいで起こったことです。

【佐藤会長】 私のブログにも一応載せました。

【宇都宮委員】 そういうインターネットでの反応ってすごくいいですし、話を聞いて、自分の感想を言っちゃいますけれども、実際おもしろかったです。おもしろかったので、58人はもったいないなと。150人ぐらい来てびっくりした会もあったと小崎さんもおっしゃっていたけれども、200人いても全然耐えられるぐらいの内容で、私たちの世代ってそんなに理想論を追い求めていなくて、現実的な対策を知りたいみたいな要求やニーズがあって、わりとそういう答えとかヒントをいっぱいいただけたと。

僕も早速活用させてもらったりとかしていますし、実際その感想を自分なりに情報拡散して、会社にいろいろなお父さんの知り合いがいますので、要点だけ書いて送ったら、「そうなんだけどね」みたいなことはいろいろ感想をもらったりもして、それなりに浸透していくという一連の流れがあるんです。

ただ、全部ネット上でしか出ない。そういうところの活用は難しい。委員の方々の総括すれば、インターネットってそんなに重要じゃないし面倒くさいしわからないというところはあるかもしれないですけども、今回のこのテーマに関してねらっている層の代表から言わせてもらえれば、もうちょっとインターネットを活用してほしかったのはありますし、よく呼びできたとは思いますが、この講師が来るんだったらもうちょっと人を呼びたかったというのがあるぐらい、すごく興味深い話を聞かせていただきました。

僕がしゃべったのは、聞かれたから反応していたぐらいのところだったと思いますけれども、委員の方々、ちょっとごこない感じのお2人の司会の方も随分、先輩の方々だということもよくわかりましたし、先ほど言われていた実行委員の方々の認識が、というところと同じですが、現場で聞いているだけで「あまり興味ないな」というのを感じました。誰かもっと若い人を司会にと思ったんですけども、実行委員の構成を聞いちゃうとなかなか難しいという……。

【森田委員】 宇都宮さんがおっしゃるインターネットもやろうと思ったんですけども、私はその辺はわかるのですが、仕事と委員会の両立で正直言ってできなくて……。

【宇都宮委員】 僕も最初お誘いいただいて、ただ、日程を見ると、この回数で全部こなすのは無理だとなっちゃって。

【加藤（春）委員】 その世代というのも、公民館のほうからの類推ですけども、小

金井は大変なんです。いいことだけれども、集まること自体に力点をおきすぎないようにして、たとえば普段はインターネットで連絡をとっていても、特別委員に入っていただくとかしてページを立ち上げていただくとか、そういうふうな臨機応変なことができるといい。

【宇都宮委員】　　そういうのがあれば。

【加藤（春）委員】　　そんなに毎回出られるような人というと……。

【森田委員】　　限られてしまう。

【加藤（春）委員】　　私のような定年退職者でさえ音を上げるというくらいのハイペースになります。

【宇都宮委員】　　ですから、そんな凝ったページも要らないので、それこそお願いしても数万円とかでできるような感じなんです。それぐらいかければちゃんと……。

【佐藤会長】　　すみませんが、細かい話はパレット実行委員のほうで……。

【宇都宮委員】　　はい。ここでいろいろ出ましたけれども対象の世代として僕は今回のこがねいパレットはすごくよかったと思いました。

【佐藤会長】　　伊藤さんも一応参加されたということで、聞いたほうがよろしいでしょうか。

【伊藤委員】　　内容に関してですけれども、小崎さんが、父親が子育てにかかわると子供の非行とかさまざまな問題の発生が低くなるということを、アメリカの大学でデータがあるということを講演の中でおっしゃっていたんです。父親が子育てにかかわらないとどうということになるかというのは非常に不可視的というかわかりにく問題なので、可視的に表面に出すということとはとても大事なことはないか、子育ての問題の数字やデータを通して、当事者だけじゃなくて社会全体に対して可視的に表現するということは、この講座に関しては重要なことなんじゃないかなということをお話を聞いて思いました。

以上です。

【佐藤会長】　　今までのこがねいパレットって、パレットの実行委員と審議会委員がこんなに結びついていることはほんとうになかったと思うんです。審議会の委員の人がパレットにどれだけ出たかと言ったら、今回は7人、ほとんど出たというのはすごく画期的なことだと思うし、参加者自体も、今まで男女共同参画啓発イベントと言っても、参加者ってほとんど女性です。実行委員もほとんど女性です。ここ数年、3年ぐらい前からぼちぼち……。男性って弱いから、1人で行って見ようとするんだけど、女性ばかりのところに1人入るのはすごく勇気が要ると思うんです。

そういう意味では、確かに問題点はすごくあって、市民実行委員の参加がいろいろ問題はあるとは思うけれども、それでも、実行委員会自体が啓発事業だと私は思っていて、イベント自体が啓発事業ではなくて、実行委員会でいろいろ違いを議論するとかいうところで高めていくところで市民力も育つと思うし、違う人がいたからどうのこうのというのではなくて、その中でともに育ってほしいと私個人としては思っているんです。

そういう意味では、確かに前、女性たちが運動してきて、そういう人たちがぎゅっと固まりあったときのイベントのつくり方とは違う時代の流れになっているけれども、若い世代につながるというのはすごい困難があると思います。実際、そういうふうに参加できないですしね。

例えば、初めて実行委員になってみると、それを両立させるのがどれだけ大変かというのもわかるし、それができる層しか実行委員に集まらないということも事実だし、もしそうじゃない形にするのだったら、もうちょっと知恵を出して、自分たちで知恵を出して市民化の形を変えていかなくてはいけないと思うんです。

でも、今回このテーマで、保問協の方とか保育問題協議会、それから学保連、学童保育の方に声をかけることができたのも、それも地域の市民だからだと思うです。地域の市民が実行委員会に入っていなければ、そういうところに連絡をとるというパイプがないので、それができたというのが私はとてもいいなと思って、参加者の方も、保問協とかが展示参加なんかしたので、講演にも参加したという系列もあると思うので、展示参加とイベントの内容というのは、確かにほんとうに専門家の方からすると物足りない気も重々わかった上でも、私は評価すべきところはある形になりつつあるのではないかとは思うんです。

だから、男女共同参画室自体が持っている事業のこがねいパレット、「かたらい」と、審議会と、ふだんとっているようなつながりが強くなっていくのは大切だと……。

【加藤（春）委員】 「専門家の方からすると」とだれか言ったのかしら。

私が言っているのはそういうことではなくて、ここは男女平等推進審議会ですね。それを男女共同参画と国が言いかえたので両方、ダブルネームで使っているわけで、男女共同参画なら平等は忘れてもいいでしょうという人が入ってこられる形になっているでしょう。けれども、小金井市としては、国もそうですけれども、そもそも男女平等のために男女共同参画を推進しているわけで、そのためには、女性が働くということは好き勝手に働くという意味じゃなくて、女性が差別されてきたというのは経済力がなかったからです。はっ

きり言ってそうです。それを変えていくことは非常に重要なことなんだと。

そのために、一方、男性は稼ぎ手として位置づけられちゃったから、子育てからは外されていた。けれども、女性が働ける社会をつくるために、そして、男性が子供とも会える社会をつくるためには、パパの子育てということは今大事なんだと。講師のそのメインラインがはっきりしないんです。

そのことが問題なのであって、それはそんなに専門家から言ってどうこうという問題ではなくて、イロハのイなんです。イロハのイをはっきりさせた上でやらなくちゃいけないと。それは、委員会が始まったときに、こちらからおっしゃってすぐわかるわけじゃないでしょうけれども、はっきりと打ち出していただかないと。そして、講師の方にもこういうラインでやってほしいということはきちっとっておかないと。

男の子育てというところにわあっと走ると、それはそれで既に今言ったような前提で入っていらっしゃる、そういう生活に入っていらっしゃる宇都宮さんなんかにはストレートに、そういう意味ではいいんですけれども、イのところを抜きにしてロハと走っちゃう人もいる。それは、専門家から言ってどうこうという問題ではなくて、小金井市の男女共同参画を推進するというこの意味づけを、我々が常に柱のところ、背骨に置いておかなければならないという問題。なので、別に専門家云々の問題ではないと私は思うんです。

【佐藤会長】 それは、実行委員の中にも背骨がある意味置いておくような形にするかということですね。

【加藤（春）委員】 そこはむしろ、そういったものはこちらの室長が、うるさがられないように、かつかんで含めておっしゃっていただかないといけないことなんじゃないかと。

【佐藤会長】 実際、行政の方というのは、実行委員会で言いにくいものなんですか。男女平等を目指して男女共同参画というものは云々かんぬんという講釈を一番最初に……。でも、文面上では言っても浸透しないというだけですか。

【阿部課長補佐】 最初の実行委員会の方に皆さんに説明はしますが、それぞれ皆さんが生きてきた歴史があるので、すぐに理解というか、頭では理解してもなかなかすぐに自分の思いに浸透していかないというところがあると思うんです。一応そういう理念でお願いしますというようなことは説明はしていますが、それぞれの考え方を持ち寄って、話し合いの中で少しずつわかっていくという感じかなと思うんですけれども。

【宇都宮委員】 さっきいろいろ書いていらっしゃったじゃないですか。これだと参加

できる人が限られることになるなど考えたことはないですか。僕だって興味があって参加したんですけども、18回とか19回というものすごい回数の打ち合わせがあって……。最初は委員でというお話をいただいて……。

【森田委員】 宇都宮さんも引っぱり込もうと思ったんですけども、とても無理だなと……。私も引いちゃいましたもん、最初。

【宇都宮委員】 スケジュールとか、去年のやつを確認すると、正直これは無理だと。ましてや僕は働いて、あいている時間で子育てもあってみたいな状態で、これは無理だとなっちゃうんです。でも、何か協力できるところはある。今回こういう形で協力させていただきましたし、僕もすごく楽しめたのでよかったんですけども、さっきの仕込みの部分、準備の部分でもご協力できることもあるのかもしれないが、委員であるかないかでこんなに作業負担が違くなっちゃうと、さっきの特別あれじゃないですけども、間をとって一時的な協力とか部分的な協力ができるのがとれると。

【阿部課長補佐】 難しいですね。基本的には昼間に実行委員会をやっていただきたいというのがあります。日程調整はしていますが……。

【加藤（春）委員】 でも、それだったら、若い人は参加できない、女性も含めて参加できない人が圧倒的に多くなるということです。だから、ウィークデーの昼間に暇のある人にやってもらうということを役所も推進されちゃ困るわけです。私、公民館の企画実行委員をやってみて、つくづくそう思いました。ほんとうに高齢化しちゃうんです。企画実行委員は若くても60代ばかりです。

【森田委員】 公民館もそうなんですね。

【加藤（春）委員】 均等法以前は主婦の方々が沢山地域活動に出られたのですが、今は定年退職の男性が主力です。若い方々が週日の昼間、地域で活動することは難しくなっています。

【佐藤会長】 PTAとか何とかもそうですものね。

【加藤（春）委員】 だから、昼間委員会をやってそれを十何回やりましょうみたいなことをやったら、それはずれるのは当然だと私は思います。

【加藤（り）委員】 ただ、過去には、いろいろなお仕事をしている方が入っていた場合もあって、実行委員会はほとんどが夜というときもありました。でも、それをしたら、今度は小さいお子さんがいらっしゃる方が、夜は子供を連れてなんかいけないから参加できないわとか、いろいろありました。今回も夜やったこともありますし、なるべく皆さん

の時間が合うように、もちろん森田さんはお仕事をやりくりしてやってくださいましたし、パネリストのおじいちゃんも、お子さんのあれがあるから午後は絶対だめなんですと。子育てをばっちり引き受けている。送り迎えとか。だから、その集まったメンバーで何とかやっていくから、全員全回出席はできていないです。そんな人はいないです。時間帯によっていろいろ変えるので。

そこで、今のやり方でやるのならば、そうやって何とかやりくりしてやらなくてはいけないから、この時間は出られない、だったら実行委員になれないと、最初からそういうふうに思わないでいただきたいんです。14回やっても、そのうちの半分も出ていない人もいます。それでもそれなりに意見を言って、当日のことをやったり、あと記録集、実は、これから記録集というのは、下手するともっと大変な作業じゃないかというのがあるので、そちらのほうで家でやる作業をできるということもありますし……。

【佐藤会長】 募集の段階でそれはわからない。こがねいパレット実行委員募集って市報に載るじゃない。夜でも昼でも全部出られなくても大丈夫ですと、そういう細かいのをつけて募集していただけなかったら、こがねいパレットというのを知っていて、それを見て実行委員になろうという人は、ある程度事情を知らないと手を挙げられないかもしれないので、そういう意味では、これを一見さんでも入ってこられるような形にするのは工夫がいるとは思うんです。じゃあ、どういう工夫がというと、いい知恵がなかなか毎回毎回……。

【加藤（春）委員】 委員さんも、何とかテーマにふさわしい新人に入ってきていただきたいですね。

【佐藤会長】 そういうやり方じゃないから。委員さんが集まってテーマを決めるわけだから。こういうテーマでやります。だから集まってくださいだと、逆になる。

【加藤（春）委員】 そうですよ、そうじゃないから大変なのね。

【佐藤会長】 集まったメンバーでテーマを決めるわけだから。

【井上委員】 パレットがテーマを決めて実施するというのもいいけれども、せっかくのパパの子育てでやるならばそれに関心のある人たちをサポートとして新たに募集してもいいのでは……。

【佐藤会長】 2段階募集するとか。

【井上委員】 あってもいいと思う。

【加藤（り）委員】 今年はしませんでしたけれども、それをしたこともあるんです。

来なかったですね。

【井上委員】 募集しても来ないかもしれないけれども、1回ずつ、例えば小学校にPTAのおやじの会ってありますね。そこの報告を聞きたいからとか言って実行委員会に来てもらって話をしてもらおうことで、関係者が当日参加してくれるようにするとか、せっかくこの展示もあるから、ぜひそこに展示してくださいという形でとか。いろいろなところにもっと声をかけられたのかもしれないと、お話を伺いながら思いました。

【加藤（春）委員】 それと特技のある人に、例えば、ホームページをつくってもらいましょうみたいな、先ほど言われた宇都宮さんなどが何サポーターというような感じで入るとか、もう少し柔軟な、それこそ新しい市民活動のやり方を入れていくと……。

【加藤（春）委員】 どうしたらそれができるのがというところなんです。今のままだと難しい、人も集まらない、どんどん減っていく。

【加藤（春）委員】 今の小金井のやり方というのは、地域に主婦がいっぱいあふれていた時代のやり方だと思うんです。

【伊藤委員】 あと、複数の団体が実際にほかの日も幾つかの団体がイベントをやっているわけですね。小金井で既に、男女共同参画ではなくても似たような活動をやっている団体もあるわけです。それを社会資源としてもうちちょっと横のつながりを持って連携するという方向で実施できればいいと思います。

【佐藤会長】 いつもぶつかるんです。きらめき環境まつりと一緒だったり、その前はらっば祭りと農業祭はいつでもぶつかるんです。

【伊藤委員】 私、はしごしました。

【阿部課長補佐】 一応市のイベントの日程は調べて、ぶつからないようにはするんですけれども、何かしらぶつかってしまいますね。

【森田委員】 これ以上後ろにずらすと記録集をつくるのが大変だし、いろいろ準備を考えると11、12月になって、そうするとどこかと必ず連チャンになったりとか、1週間違いのは市民活動まつりとか。

【加藤（り）委員】 そういうことに関しては先生の事情もあるし、最大限の努力は、これ以上できないというぐらいの努力はしていて、日にちに関してはそれでこれなんです。

【森田委員】 そういう緩いつながりというのはいい案ですよ。テーマが決まったら、パパの集いとするなら、宇都宮さんは直接の会合には入らないけれども、情報部門で宣伝してもらおうとか、ちょっと分類をして得意そうな人とかその分野に直接関係ありそうな

人に投げるだけのやり方を、実行委員と対面でやるのはできないけれども、家でネットで宣伝しまっせみたいなのはおもしろい発想です。

【宇都宮委員】　そうですね。ホームページだとちょっと厳しかったりするんですけどもブログであれば……。どうしたって独自のページをつくと、短期契約でも何千円かは必要になっちゃうんです。つくるところは自前でやっても、そこはかかっちゃうと思います。そこぐらい持ち出してという気持ちもありますけれども。

【加藤（春）委員】　それはやり方を考えて。

【宇都宮委員】　時間かかっちゃいますよ。

【加藤（春）委員】　スキル提供に対して謝礼を出すというやり方もできないですか。

【阿部課長補佐】　予算的にはちょっと難しいです、すみません。

【宇都宮委員】　その辺が惜しい。結局僕も自分の保育園に張ってもらったぐらいだったんで……。

【佐藤会長】　宣伝対象に……。

【関口委員】　そうですね。さっきおっしゃられたみたいに、得意分野、いろいろな業者がいるので、得意分野の人をお願いをする。例えば、看板とか横断幕つくるときには、大きなプリンタを持っている会社の人がいるのだったら、お金はもちろん払いますけれども、そういうのをつくってもらうとか、図面をつくるのには測量の人たちを頼もうとか、そういう形でやってもらったり、飲食関係の人もいるのでどうしても時間は合わないから、この人たちには実働こういうところを担当してもらおうというような分業はとっています。

どうしても私たちも職種がさまざま、月曜日から金曜日の方もいれば土日がメインで忙しいという方もいらっしゃいますし、時間帯も飲食の方であれば夕方から夜中まで。実は私たち実行委員会というのは、今年は特に朝やっているんです。早朝6時半からやっています。8時近くから仕事がある人がいるので、8時ぐらいには終わらせましょうということ。

今までは夜やっていたんです。夜やると、時間がまだあるだろうとってエンドレスに続いていたり、懇親会に入りましょうということで飲みながら話す形でどうしても遅くになってしまうんです。そうすると、おしりを決めないと話が決まらないということで、去年ぐらいからうちの委員会もそうだったんですけども、朝7時半とか6時半に集まってやっていますので、遠い方はあきる野から来ている方もいるんですけども、そういう方は始発に乗って来てやっています。

朝というと、その時間に仕事が入っている人はあまりいないんです。我慢をすれば来られる時間じゃないかということで、みんな我慢してやろうよということで、早朝でやっています。

あと、どうしてもできる、できないというのが出てきちゃうので、先ほどおっしゃったみたいに分業というか得意、不得意があるので、この人は文章をつくるとかが得意だからこれを任しておこう、アイデアマンにはアイデアを出してください。あとカバーできないことはメーリングリストで議事録的なものを流して、こういうことをきょう話し合いましたので、次回からは宿題で意見をどんどん出してくださいみたいな形で私たちはやっています。

【佐藤会長】 広報も大切なんだけれども、これは教育委員会か何かで、学保連の子供たちとかのところに配っていただけたんですか。

【阿部課長補佐】 学童のほうには全員配りました。保育園も幼稚園も配りましたし、ほとんど手を尽くしたという感じ。ただ、インターネットは……。

【宇都宮委員】 これ、保育園に配ったんですか？

【阿部課長補佐】 ええ、配りました。全員にわたるように、園児の数を調べて配付しました。

【宇都宮委員】 もらわなかった。ポスターも張っていなかったです。もう一個別の11月ぐらいにやられた父親に向けた子育てか何かのイベントはチラシが張ってあったです。入口にチラシが束で置いてあってご自由におとりくださいと。これは張ってもいいし、ご自由におとりくださいというところいろいろなチラシが入っているんですけども、そこにもなかったです。

【森田委員】 多かったから捨てられちゃったんですかね。

【宇都宮委員】 そういう話をたしか前回かお伺いしていたので、待っていたんですけども、一向に始まらないんで、ちょっとチラシを多目に送っていただいて、自分で置いたり、掲載許可をもらって張ったりしたんです。

【森田委員】 私もおかしいな、張っていないのかなと思ったんですけども、おくらしているだけなのかなと思ったら、掲示してなかったんですね。

【宇都宮委員】 むしろ逆に許可をいただくぐらいの感じだったんで、これは市役所に、私たちも存じ上げているので、大丈夫です、張ってくださいと言われたぐらいなので、とても受け取っている人の発言には思えなかったです。一応そういう現状をお伝えしたいと

思います。

【佐藤会長】 すみません、パレットのことで長くなりました。

前回、配偶者暴力対策基本計画が出たので、そのことに対して議論をして、その後ですが、第3次行動計画の「個性が輝く小金井男女平等プラン」の推進状況調査報告書については全然議論できなかったというのがあるのと、私たちの審議会も、きょうを除くとあと3回ぐらいしかないんですね。きょうが5回目ですから3回しかないので、その中で市に対しての提言なり、諮問はないので、どういう形で閉じるかということもそろそろ視野に入れなきゃいけない状況になってきてしまいましたので、今後の議題をどういうふうにするかというあたりを、最初るときからどういう議題でいくかということで話しているながら、そこがいつも、ふらふらで出た話題で、審議じゃなくて懇談のようになってしまっているんですが、いかがでしょうか。

推進状況調査報告書も、今期の場合じゃなくて、いつも、幾つやったよ、どうのこうのやったよという報告だけは出るんだけど、それをどう評価していいかもわからないし、こういう評価の仕方でもいいのかどうかもわからないしというところで詰まっている感じもあるんですが、いかがでしょうか。うちの審議会としてどういう方向に向けて議論をまとめていくか、プランはちょうど24年で終了なので、1つは、プランをつくる実行委員会なりが、策定委員会が近々、来年度あたりには招集されるのではないかとということも視野に入れて、そちらに向けての提言にするのか、それともまた違った形で、今までやってきた審議会で議論されたことをまとめる形で報告書みたいな形で上げていくのかということもあるとは思いますが、いかがでしょうか。

ざっと今までの経過をあれすると、前期からの重点6項目云々かんぬんの提言を読んで、それをどう料理していくかということと、長計審の話があったので、そこに対するパブリックコメントとか何とかを審議して、あと、子育て向けの、今、井上委員からも出た、若い世代に向けてのというものの議論をして、DV基本計画を議論してというふうに散漫に議論してきたのですが、どういうふうにまとめていくか、ご意見等ありましたら出していただいて、きょうあたりで議論を集約する方向に行かないと、散漫するばかりで、あとどうやってまとめをしていくのか。どうですかね。

報告書に対するざっくばらんな意見も、まだ全然出していないので、この前、今話題になったこがねいパレットが何カ所にも出てきて、切り口が違うから何カ所にも出てくるとか、やっぱり切り口が違うといってもこんなにたくさんあってもとかいう意見もあったり

もしたのですが、いかがでしょうか。

プランのほうの議題に持ってきてよろしいですか。その前に何か議論したいというものがあればお伺いしましょうか。

審議会の目的としては、一応プランの進捗状況に関して審議して、それを提言なりするというのが、当審議会の目的ですね。

いかがでしょうかね、これをつくった目的で。

【関口委員】 意見みたいなものですがけれども、私がこれを読んでみて、こういう配布物をつくりましたとか、こういうところに設置しましたとかがたくさん書いてあるのですが、先ほどのお話でもたくさん出てきたと思うんですが、興味がある方は自分から情報をとりにいくと。男女平等に関して興味があればそういうふうに行くんですが、それを思わない人は全くこういうところに情報をとりに行かないんです。もちろん先ほど言ったようなインターネットという手もあると思うんですが、こちらからいろいろ宣伝しても来ないのであれば、逆に人がいるところに行って何かをすればいいんじゃないかと私は思ったんです。

例えば、市民まつりだとかそういうところにも人は集まりますので、多少ブースを出すと。ブースだけというのも、結局興味がある人しか来ないんです。悪い言い方をすると、何かしら特典だとか、変な言い方をするとえさを置いて、私たちもやったんですが、アンケートに答えてくれたら風船を上げますとか、クイズを全部解いてください、解いた方には風船をプレゼントしますよみたいなことをすると、子供がいる方なんかは特に、風船を子供にあげたいということで、アンケートに答えたりだとか参加するんです。

私たちがやったのは携帯電話とかを使ったクイズ方式で、自分たちの話で申しわけないんですが、小金井市青年会議所ってどういうものですよというクイズを出題するんです。間違っていますと、また戻れるようになっていて、全員が最後にいくと、全問正解しましたといって風船をどうぞという形をとりました。そうすることによって、認識していない部分——青年会議所はほとんどが知らないと思うんです。商工会でしょとか、商工会議所とか、市の職員の方ですよねというのはよく言われることです。

統計をとってみても、半数以上はそういう誤解をされている方が多いということで、クイズに答えたら風船を上げられますよ的なもので、広く一般の方にもうちよっと学習していただくような仕組みがないと、どうしてもこういう形でやっていますと言われても、ひとりよがりになっているんじゃないかと私はすごく感じています。

これだけやりました、この間はこのことをして、これだけの成果がありました。来ている方とか情報をとっている方というのは、何回も来ている方であって、一部じゃないかなど。広く男女平等だとかそういうものを広めるのであれば、一般的に人が集まっているところへ行って、大々的に宣伝しないとこういうものは定着していかないんじゃないかと思うんです。あとは、学校だとかの教育だと思うんです。

私は、前職では、カナダに住んでいましたので、周りの環境というのは、男女平等は当たり前という感覚だったので、逆にこちらに戻ってきたときに衝撃を覚えたというか、こういうものかと、なじめない部分が出てくるんです。私自身も女性の上司がたくさんいましたし、女性の方もばりばりやっていたので、あまり女性であるという意識をしないで仕事をしていました。

そういうことを考えると、まず、教育的な部分という、一般で知られている部分は、かなりまだまだ低いんじゃないかと感じるんです。ですから、一般市民が目を向けるところに自分たちから行って、それを広報しないと、現状は変わらないんじゃないかと、私はこの本を見て考えました。

【佐藤会長】 主張としては、男女共同参画室を知ってもらおうということですか、男女平等推進審議会を知ってもらう、一個一個の事業を知ってもらうとか、何を知ってもらうかというところ……。

【関口委員】 基本的には、何とか室というものがあること自体、男女共同参画のことをあまり理解していないがためにそういうのをつくっているんだなという気はするんですけども、最初はそういう何とか室というものも必要かもしれませんけれども、どうにか広く、そこにあったところで知らない人はそこに行かないわけであって、もうちょっとどんだん前に出て行ってほしいなと、この報告書を見て思いました。受け身過ぎるかなという気がしました。

【宇都宮委員】 同感です。

【佐藤会長】 同感……、受け身過ぎる……。

【加藤（春）委員】 カナダではセンターをつくったことがありますか。

【関口委員】 おそらくあると思います。ただ、私自身そういうところに行く機会がなかったもので、はっきりとは申し上げにくいです。

【加藤（春）委員】 男女平等社会に変わっちゃった後でいらっしやった。

【関口委員】 そうですね。

【加藤（春）委員】 イギリスなんかは自主的に運動団体がつくっていたセンター以外に、センターはあまりつくらなかったようです。けれども、職場を変えるための相当な話し合いはあって、男女平等を職場で実現するためにもものすごいストライキを打つとか、そういうこともあって変わって、男女平等はある程度当たり前になったという形で、行政推進というのとはちょっと違うんですね。

だから、日本の場合、行政推進でやったことのメリット、デメリットはあるけれども、北区のお話を伺うと、見えるところで活動していらっしゃって、それこそ専門性からいって、ラインをきちっと発信し続けていらっしゃるところがあるということは確かですね。

小金井の場合は、「男女共同参画室」というのがあるから、非常にまじめな市民がいたとして、そこへ行ってみようと思うとそういう場所はないのでとまどってしまいます。

【阿部課長補佐】 体制そのものがほんとうに小規模なので、他の区市と全然違うと思います。センターがあって、体制がきちっとしているところとは全く比べられないです。

【加藤（春）委員】 ほんとうに2人だけの、部署が「室」と呼ばれているわけで庁舎の2階に行くと、広い大部屋の隅っこで2人で仕事をしていらっしゃる。

【関口委員】 いろいろとルールとかはあると思うんですけれども、それが守られなかったりとか機能しないということが多いなと私は感じるんです。特にこの日本の社会の中では。逆にカナダだと、決まり事は多くはないけれども、決められたことに関しては結構びしっと守らなくてはいけないだとか、例えば、妊娠されて出産するために育児休暇を1年とって戻ってきましたと。そういうときには全く同じポジションがなければいけないという法律が決まっています、日本でもそういうことを言い出してあっても、結局はそうはなっていないとか泣き寝入りしちゃってとか、会社のほうで何となしになし崩しのどろろにかしてしまっているというのがあると思うんです。

カナダであつたらそれは許されませんよということで、会社を訴えるだとか、そういう行動にも出ますし、皆さんの意見というか、主張される、マタニティリブじゃなくてパタニティリブ、いわゆる男性の育児休暇というものも、男性も育児をしたいんだからとらせてくれという形でとれますし、女性と2人で26週ずつ、52週とっても構いませんよとかいう形になっていますので、そういうことが守らなければ、やはり出るところに出てどうにか話はしましようというところがあるんです。

日本だと、それがどうしてもななあになんていって、なし崩し的になくなってしまっている現状があるので、そういう部分で、土壌というか文化が違うのでどうしようもない部

分もあるのかもしれませんが。

【伊藤委員】　でも、制度として行政のほうでつくってもらうような働きかけを審議会としてはできるのではないかと。カナダのような制度を日本でも定着するように、具体的に行政側で義務化するのはいかがでしょうか。

【佐藤会長】　形的にはある程度できている。

【宇都宮委員】　同じポジションもありますからね。

【森田委員】　現職復帰も一応原則なんですよ。

【宇都宮委員】　正直うちもそうですけれども、3カ月置いて、そこから配置転換になっちゃうんです。3カ月は戻すんですけれども。

【加藤（春）委員】　むしろ働いている女性自身は、大方は結局、結婚のときにはさすがにやめなくなったけれども、出産のところでいまだにやめるわけでしょう。その人たちに予めわかりやすく権利行使に向けて情報提供をしておくということは、あまり行われていない。行政としてその権利を行使すべき人たちに働きかけていっている部分は非常に少ないですね。そういう人にはいつでもどこへ出かけていって伝えたらいいのかというのが、非常に難しいけれども。とにかく朝の10時からウィークデーに講座を時々やっていますという話になっているわけです。

【宇都宮委員】　仕事のところはちょっと難しいですね。逆に、あなた務まりますかというのを最初の3カ月で女性の方にとっちゃうんですね。すると、私はこの状況で4時に帰らなきゃいけないしとか、これ無理ですとなると、務められるところに移してあげるねという感じで、女性も逆にありがたいございましたみたいに、流れとしてはなっちゃっている。

【加藤（春）委員】　かなり進んだ会社でもそうなりやすいのですね。

【宇都宮委員】　今勤めている会社の前は外資の会社だったんですが、そこではナンバー2から4が全部女性だった。僕の上司の部長が女性だったということもありますし、私と同じ中間管理職には女性もいっぱいいますし、部長、本部長にも女性がいます。進んでいる会社でも現状を気づかって結局責任の軽い職場へ異動になってしまう、実質現職に戻れない。

ただ、それでもうちなんかまだ頑張っているほうで、いったん課長級から降格になった女性の子育てが落ちついたら再び同じ立場に戻っていくというのはあります。実際そういう事例が最近何例かあります。

僕がいろいろ聞いていると、結構やっているほうなんだろうなというので、現職復帰というのも物理的な障害とかもあったりするわけです。お客さんと会わなきゃいけないところとなると、最低でも営業時間中のアPOINTは断れないことがあったりとか、いろいろ制限があるもんですから、そういうときにもう一人サポートとやればいいですけども、なかなかそこまで企業はできないので。

ただ、もともとそういうところに、何かこういう概念がちゃんと、考えとして、例えばもう一人つけば、4時から6時担当でもいいですけども、そういうのがつけば解決する問題なので、そういう提案をしたいというのがもともとこの審議会委員に応募したきっかけですね。

【佐藤会長】 4時から6時までやる人の勤務体制はどうするんだと。その人の……。

【宇都宮委員】 ふだんの仕事に対して4時から6時だけダブルワークになるという意味です。

【伊藤委員】 じゃあ、ワークシェアリングと子育て体制の強化というところでしょうか。

【宇都宮委員】 ですね。あと、小金井市の議会だよりだったかな、何でこんなに教育費の割合、この小金井市は少ないんだろうと思いました。土木は常に突き抜けていて、教育費はどういう視点で切ってもすごく低い。多摩平均の7割とか8割。

【佐藤会長】 子育て施策が弱いですね。

【宇都宮委員】 東京都の都市計画平均の7割、どれで切っても100%いくことはなくて、つまり小金井市は相対的に見ても、東京都の中で教育費を削っている自治体なんだというがすごくよくわかる。その反動で、どう切っても土木は100%を超えるわけです。

事情はいろいろあると思いますけれども、こういうところを見るとがっかりしちゃうんです。小金井市に特化して言えば、例えば先ほどの保育の充実というところも、いかに教育内容の予算が入っていないかというのがわかりますし。

【佐藤会長】 教育水準は高いと言われても、何をもって高いと言うのかわからない。

【宇都宮委員】 でもいいですよ。ほかの市と比べても小金井市の保育は働いている人に優しい。さくら保育園がそうなのかもしれないけれども、ものすごく融通がきいて、働いている人の立場を理解していただいている保育の体制になっているというのはすごく理解しています。ほんとうに入れてよかったなと思います。

【森田委員】 教育費というのは、保育費は入っていないんですか。

【宇都宮委員】 全部入っていると思っけてます。

【森田委員】 教育費というのは小学生以上ですか。

【宇都宮委員】 なんですかね。そうすると、それは福祉のほうになる。僕、勘定がわからないけれども。

【森田委員】 保育は福祉の分野だと思いますね。

【宇都宮委員】 当然僕らはここを乗り越えると、保育よりもっと厚い学童の壁とか、この後いろいろあるわけです。そういうのを考えていくと、共働きて、お互いちょうど理解のある会社に務めているので、何とか続けていきたいと思っけているんです。それですら、理解のある会社同士ですらこの先が見えないぐらい不安ですけれども。当然もっかつらい人が山ほどいるだろうと。会社でつらくて、特に自治体からのサポートもなくという。あると思っけます。

【加藤（春）委員】 大学までは教育機関の責任だと思っけて、私なんか頑張っけて教師として女子学生に情報提供をしてきましたけれども、20代・30代の女性への情報提供はどうなっているのでしょうか。会社に入社して子供を生んで、そこまでにあまり情報を得る機会がなくてという人は、地域の責任じゃないでしょうか。その層なんかは全然とらえられていないというか、20代で働いていない人というのは非常に少ないわけだから、まずはウィークデーの午前中、ウィークデーの昼間なんかは出られない。そういう層に対して自治体が何をすることができるかということですね。

だから、保育所をつくるというのも非常に重要なことだけれども、既に退職してればお子さんは保育所には入れないということになっちゃっているから、そうならないようにというあたりの情報提供は非常に弱いような気がする。

【宇都宮委員】 最低認識できれば現状を変えてほしいんですけども、今会社で務めているまさに20代で、最近結婚されて子供ができたとか何とかというのがあったんですけども、保育園はいつでも入れられるという理解でいましたから。10月に入れる予定ですと云って、そこはそこで復職しますという話をしていて、10月は無理だと思っけるよ、少なくとも公のやつは無理ですよと。

【佐藤会長】 それこそネットで検索しろよと。

【宇都宮委員】 いや、そうですけれども、すごく考えているんですね。子供にはそれだけやってくれるだろうという先入観があります。

【森田委員】 最初市役所に行って待機児童がいて入れないって、調べるまでわからな

いです。私もそうだったし。

【宇都宮委員】 調べるといのは不安があるから調べるんですけども、不安すらないんです。当然公は子供、自分では自立できない子供に対して当然支援はしてくれるものだろうという思い込みがある。まさかこんなに、しかも市民から保育園に入るのが大変だとかいう話は、会社だとあまり出てこなかったりとか。

【森田委員】 日経しか読んでいなかったりとか。日経でも今出ていますけれども。待機児童が多いのも、これだけテレビや朝日の社説までになっているけれども、メディアリテラシーってそうじゃないですか。そういう情報をとらなきゃいけないって、気がつかない人は読まないから。私たちは気がついているからメリットもあるんですけども。

【宇都宮委員】 そうですね。

【加藤（春）委員】 そうそう、だから、情報が蓄積されているけれども、全くわかっていない人もそれこそいる。

【宇都宮委員】 わかります。僕も先ほど、パレットのときにも言いましたけれども、子供が生まれてから子供のことをいっぱい知ろうという気になるんです。ただ、生まれる前にその辺は何もないです。

【佐藤会長】 気づかないからです。ベビーカー押している人ってこんなに多いんだとか。

【森田委員】 興味がないというところもありますね。

【宇都宮委員】 興味がないというのもあります。ただ、当然ですけども、私がしゃべっている言葉をインプットすると、途端に興味を持つわけです。えっとなって自分で調べ始めるわけです。

【森田委員】 保育園入園であるとか「共働きナビ」というタイトルで、毎年、北区以外では私、前の勤務先でも講座をやっているんですけども、「保育園に入るの大変なんですよ、もし認可に入れなかったらこういう準備をしておきましょう。保育園は見学しましょう」というのもやっているんですけども、それをやっていることで、行かないとひよっとしてやばいかもと思って来て、大変なんですって知って……。

【佐藤会長】 進んでいる人は、就職する段階で、それこそワーク・ライフ・バランスなんだとかになっている会社を選ぶとか、公務員のほうが働きやすいとか、そういう感じで就職する段階で選ぶ人も中にはいるでしょう。

【加藤（春）委員】 それでもなおかつまずい会社に入っちゃって、あーあとなるんだ

けれども、すごくギャップがあるんじゃないですか。

【宇都宮委員】 今、若い人って就職は選べないでしょう。選べたのはちょっと前の一、二年だけです。今は選べないです。

【佐藤会長】 正職員さえ選べない。

【宇都宮委員】 そこは、大学の新卒のところではそれなりに本気でやれば、どこでもいぐらいの感覚であればあるのかもしれないですけど、いくら何でも学生にどこでもいいという選択肢はないかと思う。自分でいろいろ学んできて、積み上げてきたものがあるはずで、やりたいことあるはずなので、それで就職できない人はどうしたって出ています。やりたいことをやりたきゃ、逆にやりたいことができるのだったら、正直社員じゃなくてもいいとかいう人もいます。そうなってくると、いよいよそういう生活設計が立てづらくなっていく環境になってくる。

【加藤（春）委員】 地域としてはとにかく若い人にも、働きかけて発想を変えていく責任があると思います。

【宇都宮委員】 一言をできるだけたくさんの人に伝える仕掛けを提案したいです。

【伊藤委員】 ある自治体では、そういうふうに関働きのお子さんがいる世帯が増えることによって税金も潤うということで、まず保育施設から置くという。保育施設というのか、子育てにやさしいまちづくりをしているという自治体もあるわけですから、その辺の観点から……。

【阿部課長補佐】 小金井は保育園は増えています。認証が2つ、認可も1つ増えています。

【森田委員】 数を増やしていますよね。それは……。結果的に、見えます。

【佐藤会長】 そのかわり幼稚園がなくなっちゃっていますね。だから、子育て環境は悪いというか、逆にいいのか悪いのかという人もいるし、その辺のところはね。

【井上委員】 さっき伊藤委員が言われた、市民税でもっている市なんだから、税金からの控除が少ない共働きやシングルの人たちが市の財政をすごく支えているんだということから、もっとその人たちにとって住みやすいまちづくりという発想があっても……と思います。

【宇都宮委員】 だって、逆に仕事をしなくなったら、今度市が手当を出す。逆に支出になっちゃうところがあると思うんです。

【井上委員】 ワーク・ライフ・バランスだと、町の活性化、繁栄につながると打ち出

してもいいかと思います。

【加藤（春）委員】　　これだけ駅の周辺に、マンションが私が越してきて10年の間にものすごく増えましたよね。だから、一軒一軒のところに、お子さまを生むときはこうこうこれだけ気をつけましょうねとビラを入れてあげたいぐらいの感じがするんだけど、どういう層が住んでいるんでしょうね。

【宇都宮委員】　　うちの妻からもよく聞きますけれども……。

【佐藤会長】　　意外と優雅な専業主婦みたいな……。

【加藤（春）委員】　　で、優雅な人が税金を控除されてしまう、それはちょっと困っちゃうなという。

【宇都宮委員】　　若い人は認識としては甘い人のほうが多いんです。保育園も1個、2個書いて、落ちてから焦るみたいな、当然何の対策もとってなくて焦るというのは。そういう危機感をあおるといのは、ほんとう本質的じゃないです。その危機感はないようにしてもらわなければいけないので。できることは限られていますけれども、さっき言ったように認識を、まず知ってもらおうということと、そもそもそれが成り立った上で税収が上がるということも、よく理解されていないんじゃないかなということもある。

男女共同参画することって何がいいのかと理解していない人もいますので、わかりやすい例だけでも幾つか、パパが対象だったらパパなりのメリット、女性の方なら女性の方のメリット、自治体なら自治体のメリットというのを、それぞれの人にわかりやすく伝えるのは、どうしても全部押さえるのは無理だと思うので、支えやすいところだけでもいいので、何かメッセージを伝えられる仕掛けというのはあっても。これだけやっているのだったら、その一仕掛けぐらいできないんですかと思っちゃう。

【井上委員】　　以前、社会教育で、あすの親のための学級という補助金つきでの講座をやっていたけれども、要は先ほどの、子供ができるまで関心があまり持てないということがあるから、とても不人気だったんです。おそらく従来の発想でやれば結局だれも来ない。そこにもっと工夫が必要だと思います。

【宇都宮委員】　　ただ、最初にも言いましたように、両親学級は大盛況でしたから。そういうところでも、こういう話を出してみるというのも、ここの活動としてはありだと思う。ただ、もともとある程度認識している人が集まっているので、そういう意味では知らない人にアプローチというよりは、深い人により深くみたいになっちゃうところもあるかもしれないですけども、そういう人はもともといろいろなところに興味を持てる人だけか

ら、両親学級にも参加していますから、そういう人たちにこういうメッセージを送ってあげてもいいかなと思います。

【佐藤会長】 両親学級に出ている人がみんな男女平等参画に理解があるかどうかということは……。

【宇都宮委員】 ないと思います。もちろん単純にない人もいますけれども、でも、一緒に育児しようと。女性だけの人はほとんどいなかった。9割以上ペアで。土日は。平日は多分その逆になっているかもしれないですね。土日はほとんど2人。うちは予定があって、向こうが結婚式か何かに出なきゃいけないくて、僕だけ行ったというのがあったんです。行ってびっくりしました。こんなに2人で来ている。さすがに僕みたいな人はいなかったですけども。真の意味じゃないかもしれないですけども、でも、若い人のほうが男女は一緒だっていうことに理解を示す。

【加藤（春）委員】 今は2人で子育てしていこうという人たちが動いていらっしゃるようなことを、もうちょっと公的支援もあって見えるようにしていく形のほうが、変わりやすいのかもしれないですね。

市民レベルというか個人レベルで動いてネットワークができかかっていることを、すくいあげて、もうちょっと見える形にする。たまたまお知り合いのいない人にもわかるようにするとか。

【宇都宮委員】 そうですね。たまたま世代が近いところにおいて、会社の環境として交流している人もいるし、この辺で育てている人も、インターネットのいろんなところでコミュニティを作ってるんですけども、小金井市で育てている子供を持っている女性だけが集まるコミュニティみたいなものもあるわけです。ミクシィのサイトの中にあったりするわけです。そこでいろいろ情報があって、保育園どうだった、それがわあっと展開されたりというのがある。いろいろな情報がすごく身近で、実際会う人もいるわけです。小金井市で育てているとなると、子供を連れて小金井市歩いている人が実はネットで会っていた人ということも、実際歩いている方に会ったということもありましたし、子供の写真だけあげて、子供を見るとわかるみたいとか、あったりとかします。水面下ではあるはあります。なので、そういうところをもう少し広げていって、例えばこの行動とそぐわないようなことをやっている状況のときに、ちょっと疑問を投げかけるような空気がつくれるようになるだけでも全然違うと思う。

えっと驚くとか、本人は当たり前だと思っていることでも、周りが驚いてあげることで、

「おれ、ちょっと普通と違うかも」という認識を持たせる。DVの方もそうかもしれないし、全くDVと思ってやっていない人でも、実はそれがDVなんだとわかって、その話を聞いたときに、「それまずくない？」とか言ってあげるだけで、「あれ、おれ、ちょっと違うことしているのかな」と。それも1人じゃなくて、2人、3人と自分の周りの人が何人も言うようだと、「おれ、ちょっと違うかもしれない」となって、改めるということもあるわけです。

【加藤（春）委員】 推進状況調査報告書に、こういうふうにとくさんあちこちでやっていることを集めるというのも、結局中心部分の取り組みを小金井はものすごくスリムな形でやり続けてきたことのあらわれなんじゃないでしょうか。例えば、北区なんかで報告書って出ますか。

【森田委員】 出ますね。

【加藤（春）委員】 そのときにメインになるのはセンターでやっていらっしゃることでしょうか。

【森田委員】 ただ、ほかの課でやっている事業も評価して載せています。書式がちょっと違いますけれども、調査して出しています。

【加藤（春）委員】 けれども、比重が違うでしょう。

【森田委員】 そうですね。

【加藤（春）委員】 小金井はセンター機能を思い切り削ってきたということがあるわけですが、もしかしたら今、私たちは少し変わりつつあるのであって、ここは審議会なんですけれども、少しワーキンググループ的になってきていますね。実際に今回のパレットには、質問者も含めて非常にかかわられたわけですから、ここがもう少し、もっと動くというふうになると……。

【佐藤会長】 そういうような審議会ではなくて、もうちょっとアクティブな審議会ですね。

【加藤（春）委員】 だって、ほかに、ここ以外に……。

【阿部課長補佐】 情報発信ですと、「かたらい」という情報誌があるので、それを活用するという方法もあると思います。今のところテーマを決めて発信しているので、市民からとっつきにくいという意見もあるんですが、そういうのも活用するということはできると思います。

【加藤（春）委員】 私たちがここでやるはずだ、ここでやるはずだと振られたところ

へ行って文句を言っている形というのは、一度やってみたのは悪くないけれども、ちょっと何か違うような気がする。センター機能が弱いならば、市民のほうを助けて、センター機能を活性化していく。この委員会そのものが少し動いて発信していくことも大事。そうなりつつあるのではないかと思います。

たまたまこの間のパレットでは委員がそのように働きかけられて、やっつけられているのではないか、それをそういう変化としてとらえておく必要があるんじゃないでしょうか。また私たちがどこかへ行って怒ったりなんかしている状態に戻ってしまうのは逆行じゃないかなという気がしたので、確認しておきたいです。

【中澤副会長】 今までの議論を聞いていて、今期3回で伺って、いろいろヒントがあるんですけども、ただ議事録があつて終わりではなくて、あと3回でこれをどういった形でまとめていくかと考えたときに、一応役割としては推進状況について検討してということなんですけれども、それよりは先ほどのお話ありましたように、今の弱いところとか、プランで10年近く前に計画したものなので、新しい課題とか情勢が変わってきていて、まだ2年あるといつてもあつという間です。

なので、いつぐらいに次期の計画を立てる別の会ができるかどうかかわからないですけども、来年の夏ぐらいまでありますね。ちょうど、私たちが次にこういうことを大事にしていていただきたいとか、今のプランと今の推進事業で足りないとか、既に出たような案を少し整理して、具体的なものも提案事例案1みたいなものでも入れて、こういうのをぜひ参考にしていただけないかというものをつくると、このメンバーで議論したいろいろな具体案が生きる。

例えば、センターについても、大事ということで1つつくって、粘り強く可能性を探っていくべきであるとか、パレットのきょうの実行委員会形式についても、すごくいいものもあるけれども、一方で課題もあるということで、そのところをまとめるとか。一部の関心ある人だけになりがちなので、いかに届けていくか。インターネットとか新しい情報手段、広報の手段をどう活用するかということも、それを使うべきだけではなくて、いろいろなアイデアが既にありましたので、そういうのも具体例に挙げて、それをやってくださいというか一つの例として活用してくださいというアイデア集も含めて提案できると、すごくこういうぺらっとした提言じゃなくて、おもしろいものになるのかなと今、伺ったんですけれども、どうなんでしょうか。

前期だと、評価の基準がないから、それをつくろうと言っていたんですけども、結構

難しく、そのかわりにというか、大事だと考えていた子育ての支援と学習の部分でヒアリングをした課題なりを出して提言したとか、前期なんですけれども、今期は、次の次期計画、プランを見据えて、情勢がこう変化していったのでこうであってほしいとか、こうやってほしいという、次を見据えた提案書みたいなものに、あと3回、じっくりいろいろな案を出して、それぞれに関心を持つ形で、その後整理するというスパンだと、今、議論を。

【佐藤会長】 プランのつくりがきちっとしていないと、評価もできないという形になっていますので、それも一つの案ですけれども、どうでしょうか。

そうすると、もっと漠然とこうだといいいねとか、そのシステムはどうかのこのこのいうのではなくて、もうちょっとローカルに見据えて、今、中澤委員が言われたように、具体的な提言集的なものに、どこまで行けるかわかりませんが、アイデア集みたいな形のものをまとめる方向性で、次回、次々回と検討する。

【中澤副会長】 アイデア集はその一部という感じですけれども。

【佐藤会長】 プラン作成のほうに審議内容を、対象を切りますか。

【中澤副会長】 といっても現状を見ていくことには変わらない。

【加藤（春）委員】 この22年度版というのをつくる必要はあるんですか。

【阿部課長補佐】 これは、男女平等基本条例で規定されているので、毎年作成する必要はあります。

【加藤（春）委員】 それはここの委員会の仕事ではないの？

【佐藤会長】 だけど、各課に5月に投げて、まとめて9月に出るわけですから。

【加藤（春）委員】 それは私たち委員に……。

【佐藤会長】 調査をかけるのは男女共同参画室でして、これと同じ22年度版が来年9月にできるということですね。私たちの任期が10月までですから。

【加藤（春）委員】 これについてまた議論するのは次の委員でしょう。

【佐藤会長】 そうですね。22年度の分はね。

【加藤（春）委員】 私たちは、今おっしゃったような、全然違うことで、つまり、この前の委員会でもかなりバタバタとまとめましたでしょう。だけど、今言ったように、これの次を頭に置きながら、提言的な方向で考えていくというのだったら、時間かけられるじゃないですか。ただ、いろいろ下書きを書く人がいるとか、この時間だけでできる仕事ではもちろんないです。

【佐藤会長】 議題として散漫になってしまう形もあると思うので、例えば次の課題に向けて議論するというのであれば、次回の審議会の前にある程度自分はこのものを、宿題じゃないですけども、ある程度文書でまとめるなり何なりのものを持ってきて審議に入らないと、いつでも感想言い合い会みたいな形になっちゃう。

【加藤（春）委員】 だから、ある程度、項目を立てて3行ぐらい書いてくるとか、何かフォームを決めておいて……。

【佐藤会長】 少なくとも、項目だけは書いてくるのを宿題にしますか。例えば、子育て施策との関係のことを書くよとか、DV相談系のこと、相談系のことを書くとか、女性センター系のことについてとか、書くだけでも。それから、教育の分野等のあれも。例えば子宮頸がんワクチンと性教育とか、若年層に関することとか。入れたいものはいろいろあると思うんです。

【加藤（春）委員】 とりあえず項目はみんな列挙してきて……。

【佐藤会長】 人数分コピーしてもってくるの。それとも、事前に回しますか。

【宇都宮委員】 送ったらご用意していただけますね。事前にメールなり書面を送ったら。

【古谷主任】 電子データで送っていただければ、ご用意することはできます。

【中澤副会長】 この推進状況の今の事業は、これを見れば何をされているかはわかる。これを踏まえて書いてもらえますね。

【伊藤委員】 例えば今回はここの目次のところの1、2、3番のところ、次は4、5、6という形で、目次のテーマを利用して議題を絞っていくというのは。

【中澤副会長】 さっきの話は、こういうふうにはまとまらない感じがします。

【佐藤会長】 この枠にこだわって、その改正版だったら、私は全然だめだと思うんです。要するに、このつくりが問題だから……。人それぞれでもあるかもしれないので、私としては、この枠組みの上に乗っかる形じゃないプランのつくり方をしたらどうかという提言をするということを持ってきたいなと思う面もあると思いますが、また別の委員からすれば、このプランの流れの中で修正していこうという方向性もあるかもしれないですね。それも別に、今の段階では決めなくてもいいと思うんです。

【中澤副会長】 ブレーンストーミング的にいろいろ出し合う。

【佐藤会長】 とりあえず今回は、あまり枠を考えずに、何でもいからプラン作成に向けてこんなことはどうかということを、ほんとうに枠にとらわれずに、一回全部出して

しまつて、それから、仕分けするとかK J法でもいいから、分けるような形にして……。それこそ、あれですかね。こういうふせん持ってきて書きますか。とりあえず、まず。次回はそれができるぐらいのことをしますか。次回来てからそれを書くのではなくて、もし書きましようと言ったら書けるようなものを持ってくる。それか1週間前に送るとかしますか？

じゃ、決めていいですか。次回の審議会の日程は、多分事務局のほうから出ると思いますので、その1週間前までに各個人が自由な形で、メモ書きでもいいし項目でもいいし、とにかく今言ったことを踏まえて、何らかの資料を参画室に送る。で、ほかの皆さんには戻さなくていいですかね。当日で構いませんか。それとも、もっと早くしたほうがいい？ほかの委員が目を通せたほうがいいですか。どうでしょう。

【井上委員】 みんなにも送ってもらえれば、1週間前に……。

【佐藤会長】 じゃ、同報メールで送るということにしますか？

【宇都宮委員】 そうすると、一担メールを送ってもらって、それに返信する形のほうが楽だったりするのですが。

【阿部課長補佐】 吉田先生だけまだメールアドレスをお聞きしてないんですけれども、個人のメールアドレスってありますか。

【森田委員】 項目としては、例えば、次のプランで、父親の子育て参画をもっと進めたいというのでもいいし。小金井ならではのプランを発表するという……。どちらの次元でもよろしいですよ。きっと、複数のいいような、同じような提言なり要求というか、出てくるでしょうから、それをまとめて出す審議会の場ということで。問題提起であればなおいいし、項目だけでもいいという感じで。

【佐藤会長】 じゃ、同報メールで送るということでいいですか。参画室あてに送るのではなくて、皆さんのアドレスをある程度……。

【阿部課長補佐】 吉田先生は個人のアドレスがないということなのでFAXか何かで……。

【吉田委員】 学校のならメールアドレスがあります。

【阿部課長補佐】 そちらでよろしいですか。

【中澤副会長】 まとめて。

【宇都宮委員】 ただ、お送りはしますよね。皆さんも見れますし、企画のところにも。

【阿部課長補佐】 皆さんに送ると同時に参画室にも送っていただいて、そこから……。

【宇都宮委員】 当日は配付資料になってくると。

【吉田委員】 送ったら送ったと言っただけですか。

【佐藤会長】 そういうことでよろしいでしょうか。

【井上委員】 すみません。推進状況調査報告書を見ていて気がついたんですけれども、データの性別が一つも入っていないんです。例えば両親学級は要は参加した人が何人と出ている、お父さん何人お母さん何人がないから、例えば古い発想だとみんなお母さんだろうと見ていたりすることとかあり得る。人数のところ、性別でというのはぜひ要求したい。

【宇都宮委員】 せめてそういうイベント関係のことは。

【森田委員】 パレット実行委員会的时候には性別の数をカウントしてって言ったんですけど、あまり内訳を出していらっしやらなかったの、パレットのときは数えてもらったんです。こういうイベントではそれは必ずやったほうがいいと思うので……。

【宇都宮委員】 一律520人と書いてあって、延べじゃなくて、2日コースだから260人で、これは130組かもしれませんし、わからないですね。

【井上委員】 男女別になっていけば、女性はそれなりに来てくれているけれども、男性が少ないんだねという話もできるし。

【森田委員】 対策とか今後どういうふうにしていくかとか。

【井上委員】 とりあえず、きょうはこのままの書式で、次回もされるかもしれないので。

【宇都宮委員】 それは、一言言えばできるところは対応できる。

【加藤（春）委員】 今までお話ししたのは次のプラン、第4次プランに向けて、今のようなくとも伝わるように、気がついたことを書くということですね。

【佐藤会長】 例えば、具体的なプランだけではなくて、全分野の中に書くわけじゃないですか。その文章の中に、必ずプランの主な事業も、報告の場合に、男女の性別、人数を書くような形式が望ましいとかいう。

【阿部課長補佐】 事業によっては数えられないものがあると思いますので、わかった場合はということですね。

【宇都宮委員】 今みたいな中心になるぐらいのところはカウントしてほしいところからも要請したいですね。1歳6カ月健診に男女比を聞いてもあれなので、でも、両親学級ってまさに男女比がものすごく気になる。そういう意味では欲しいです。とってなければ

とってください。そうじゃないものも多分この中にいっぱいあったので。就職支援のやつとか、でもこれも気になるわけです。ほとんど男性の方が来ていたら、女性の社会進出のためには全然役に立っていないわけですから、確かにそうです。

【阿部課長補佐】 男女共同参画室でやっている就職支援は女性のための就職支援です。

【加藤（春）委員】 次回までにというのを確認していただけますか。次回の1週間前までに。

【佐藤会長】 ということでよろしいでしょうか。じゃ、とりあえず次回の審議会はそういうふうにして、次回の中で、出されたものをどう料理するか、どういうふうにまとめていくかというのをまとめて、次々回につなげていくという形で、最終的には次のプランに向けての何らかのものを提案できたらということを進めていきたいと思います。

【加藤（り）委員】 すみません、公民館から宣伝というかご報告の依頼を受けてきました。本館の男女共同参画セミナーが来年2月末から3月にかけて、金曜日全6回ですけれども、今回は年金ですとか、デートDVとかいったものに取り組みたいんだそうです。

男女共同参画セミナーは参加者がなかなか少ないんですけれども、例えば、この間、貫井南でやったとき、最初申し込みが少なかったんですが、私たちが聞き取りに行きましたでしょう。そうしたら、そこら辺の関係もあったので、電話がかかってくる、来てくれなしかと。とにかくいろいろな人を呼んでほしいと言われて、みんなで手分けして呼んだら、最初申し込みが四、五人しかいないところが、35人ぐらいまで集まって、ほんとうになかなかいい講座だったんです。

そういうこともありますので、今回の本館の場合も一緒にできたらいいなと思います。2月末から3月なので若い方に来ていただきたいということで、井上委員や中澤委員の大学の学生さんのほうにチラシなどができたら声をかけていただけないだろうかという依頼をいただいていますので。

【中澤副会長】 うちも10日で授業が終わってしまうので、それまでにチラシを。期限があるので。

【加藤（り）委員】 大丈夫です。始まるのが2月の半ばなので、チラシは1カ月前にはおそらくできているので、できたらお届けして。

【中澤副会長】 見れたら大丈夫です。こちらで印刷しますから。

【加藤（り）委員】 添付でいいんですか。印刷していただいて。

【井上委員】 別の添付でもらうと、またメールで……。

【加藤（り）委員】 そうですね。わかりました。

【森田委員】 テーマは。

【加藤（り）委員】 まだそこまで決まっていならしいです。

【佐藤会長】 準備会はいつでしたっけ。

【加藤（り）委員】 もう終わって、先生に依頼するところだと言っていました。年金なんかでも、今年金を受け取っている方というのものもあるけれども、若い人に、これからの生活を考えるという意味で取り上げたようです。年金という言葉を出すのはどうなのという話は出たんですけども。

【佐藤会長】 非正規の働き方というのが、女性と仕事の未来館から来ていますよね。

【加藤（り）委員】 アウェアってあるんですが、デートDV防止プログラム・ファッションリテーターとか、そこら辺で呼びたいというお話でした。またきちっとチラシができましたらお送りしますので、お願いいたします。

【佐藤会長】 何かほかに連絡しておきたいことは。

【加藤（春）委員】 本館の準備会はずっとおくれちゃって、12月22日。新しく委員も出られて、頑張ってくださいと。結局何だかみんな寒いときに行われるんですね。

【佐藤会長】 結局、年度初めからこうやってずるずるずれ込んでいく。

【加藤（春）委員】 秋はたて込んだじゃうからあまりできなくて、春は年度初めだからできなくて夏は暑くてできなくてという。

【佐藤会長】 でも、比較的事業は継続しているから。今ぐらいから来年度の企画をつくっておけば、年度初めにできるのに。ちなみに、こがねいパレットのことが「月刊こうみんかん」に載るなんてめったにないと思うんですが、これはどちらから働きかけたんですか。向こうから要請があったんですか。

【阿部課長補佐】 パレットの実行委員の方が「月刊こうみんかん」の編集委員もなさってまして。情報誌「かたらい」のことも載りました。

【佐藤会長】 ほかにはよろしいでしょうか。

では、本日はどうもお疲れさまでした。

— 了 —